

水辺活動に期待される教育的効果

—指導者への質問紙調査—

千足耕一*, 村瀬保文**, 松下雅雄*, 倉田 博*

The Educational Effects of Water-front Activity

Kouichi CHIASHI*, Yasufumi MURASE**, Masao MATSUSHITA*, Hiroshi KURATA*

Abstract

This study was set up to evaluate the educational effect of participation water-front activities such as sailing, rowing and diving.

A sample group of water-front activity instructors (N=262) currently coaching in junior yacht clubs, in high school yacht clubs, or teaching in water sports centers in Japan reported their experiences and feelings about the effect of water-front activity.

The overall findings of this study have shown that water-front activity has many educational benefits for children. However, further research is needed to evaluate in more detail the effect of water-front activity.

KEY WORDS: *water-front activity, educational effects, leader*

はじめに

文部科学省は2002年度からの学習指導要領（小・中・高等学校）において、地域の実情に応じた自然体験を積極的に取り入れることを掲げ、特に、地域的、季節的限定のない「水辺活動」を明示した。

しかしながら、学校教育現場での水辺活動の採用については、小学校において32%、中学校では23%程度であるという報告がなされている¹⁾。そして水辺活動の普及に関する阻害要因として、指導者不足、実施場所の確保が困難であること、器材の問題、安全管理上の問題、情報不足、生徒の

時間不足、活動予算の問題等が指摘されている¹⁾。

鹿屋体育大学海洋スポーツセンターは、これまでに水辺活動・海洋性スポーツの普及に資するために有識者との協力者会議を毎年開催し、施設¹⁾・指導者²⁾・安全管理⁵⁾⁶⁾や、学校教育へ導入するにあたっての課題を提示してきている³⁾⁴⁾。

水辺活動の一層の普及を図るためには、これまでに行われた施設などのハード面、指導者等のソフト面と、それらに関連する安全管理に関する調査研究を深めていくことに加えて、水辺活動における教育的効果の明示が必要であると考えた。

水辺活動の効果について言及した酒井⁹⁾は、海洋性スポーツ・レクリエーションの価値について

*鹿屋体育大学海洋スポーツセンター

National Institute of Fitness and Sports in Kanoya, Center for Water Sports and Sciences

**鹿屋体育大学海洋スポーツセンター客員教授、日本海洋技術専門学校

Visiting Professor of Center for Water Sports and Sciences Japan Marine Technical School

て、心理的側面、社会的側面、知的側面、身体的側面をあげている。そして水辺活動の特性について、「自然への認識と深い理解を呼び起こす」、「安全への対応とその行動が重要となる」、「自己達成の喜びは感動を与える」、「水辺学習への熱心な取り組みとそのことを通して、水辺環境の保全、環境保護への関心を持ち、実践活動に参加し、積極的な推進者または担い手になる」、「ルールを遵守することを、ごく自然にかつ平易に体得できる」をあげている¹⁰⁾。坂田¹¹⁾は「水中における安全能力の獲得」、「自然を読む能力の開発」、「創造性」の開発、「人間性の陶冶」、「社会性の陶冶」において水辺活動の教育的価値があると述べている。

渡壁たち¹²⁾は、海洋体験学習が中学生のメンタルヘルスに及ぼす影響について検討し、組織キャンプと同様にポジティブな効果をもたらすと述べている。(財)日本マリンスポーツ普及教育振興財団¹³⁾による調査においては、生徒たちの反応や指導者の感想・意見について簡単に述べられている。

しかしながら、水辺活動の教育的効果については研究事例が少なく、調査のフレームワークについて精査し、効果について実証的に行われた研究成果が少ないことから、今後研究の積み重ねが求められる。

そこで本研究は、研究の初段階として、水辺活動に期待される教育的効果について指導者に対して尋ねることにより、水辺活動で指導者が目標としている効果や指導経験の中から感じられた教育効果について明らかにすることを目的とした。また、指導者自らの経験から得られたものや、日常に生かしているものは、水辺活動において得られる効果の一つとして考えられるものであろう。今後は本研究から得られた結果を基に水辺活動の教育的効果に関する調査用紙を作成し、効果を測定していくことを視野に入れている。本研究はこれら一連の研究の端緒として位置づけられるものである。本研究の成果は、今後の水辺活動の一層の普及に資する基礎的な資料となると考えられる。

研究方法

水辺活動の指導者564名（国立・公立の青年の家や少年自然の家等、および民間の青少年教育施設の水辺活動担当者102名、全国の水産高校・専門学校の担当教員71名、全国のジュニアヨットクラブにおける指導者90名、高等学校体育連盟に所属するヨット部の指導者・顧問教員140名、全国的に広く普及活動に携わっているB&G財団の海洋センター指導員177名）を調査対象とした。調査用紙は、2枚で構成される調査票であり、1枚目は自由記述式、2枚目は選択肢型よりなる自記式質問形式であった。これらを用いて郵送法により、平成14年8月～9月に調査を行った。

調査項目は、性別、年齢、行っている種目と経験年数、はじめたきっかけ、魅力、種目を続けたことによって得られたもの、日常生活に生かせるものと現在の水辺活動への関わり方を自由記述で尋ねたものである。これに「青少年の野外教育の充実について（報告）」（H8年度）¹²⁾をベースにした教育的効果に関する項目に酒井⁹⁾¹⁰⁾の文献を参考にした選択式質問項目を加え調査用紙を作成した。

調査結果の分析にあたり、水辺活動種目を大きくセーリング、ローイング、ダイビングに分類してまとめた。統計的処理を必要とする項目については、SPSS10.0Jを用い、独立性の検定（ χ^2 検定）を行い有意水準は5%とした。

結 果

1. 回答者の特徴

調査用紙の回収総数は276通（回収率は48.9%）であり、国立・公立の青年の家や少年自然の家等、および民間の青少年教育施設の水辺活動担当者からは49通（48.0%）、全国の水産高校・専門学校の担当教員から44通（62.0%）、全国のジュニアヨットクラブにおける指導者28通（31.1%）、高等学校体育連盟に所属するヨット部の指導者・顧問教員44通（31.4%）、B&G財団の海洋センター指導員からは90通（50.8%）の回答が得られた。この中に該当者なし・廃校などを含まないため、

表1. 回答者の性別と年齢層別分布

	性別		計
	男性	女性	
20歳代	35(13.4)	2(0.7)	37(14.1)
30歳代	85(32.4)	1(0.4)	86(32.8)
40歳代	83(31.7)	1(0.4)	84(32.1)
50歳代	43(16.4)	0(0.0)	43(16.4)
60歳以上	11(4.2)	1(0.4)	12(4.6)
計	257(98.1)	5(1.9)	262(100.0)

()内は全体に占める%

それらを分析の対象から除外した。よって、有効回答数は262通(46.5%)であった。

回答者の性別は男性が257名(98.1%)であり、女性は僅か5名(1.9%)であった。回答者の年齢では、20歳代が37名(14.1%)、30歳代が86名(32.8%)、40歳代が84名(32.1%)、50歳代が43名(16.4%)、60歳以上が12名(4.6%)と30・40歳代が中心であった(表1)。

2. 回答者の水辺活動への関わり方

実施している種目について、2種目を回答してもらったところ、セーリング種目では、ヨット(135名)とボードセーリング(14名)、ローイング種目ではカヌー(107名)、カッター(19名)、ボート(15名)、ペーロン、筏などであった。ダイビング種目では、スクーバダイビング(36名)、スキンドイビング(8名)という結果であった。その他、ウェイクボード、ライフセービング、フィッシング、磯遊びといった実施種目があげられた。

現在の水辺活動への関わり方をみると、セーリング種目では、高校や専門学校で指導(45名)、ボランティア指導者として不定期に指導(25名)、地域の指導者(22名)が多く、ローイング種目では、海洋センターで勤務(25名)、ボランティア指導者(11名)、施設職員(11名)があげられる。ダイビング種目では、授業や部活動での指導(28名)、仕事として指導(8名)が多かった。

3. はじめたきっかけ、魅力、得られたもの、日常に生かせるものについて

はじめたきっかけ、魅力、得られたもの、日常

に生かせるものについては、セーリング、ローイング、ダイビングの3種目に分類し、表を作成した(表2~表5)。

「始めたきっかけ」についての回答は表2の通りであった。各種目で共通にみられた回答は、「仕事・勤務・業務の都合」や「指導上必要となった」、「クラブの顧問となった」である。ダイビング種目における独自のきっかけでは、「研究手段として」、「水中の世界を知りたかった」、「好奇心」、「違った世界を体験したかった」があげられる。セーリング種目の場合では、「興味があった」、「帆走の素晴らしさを体験して」、「海が好き」や「将来の教育に必要と感じて」との回答があった。ローイング種目では、「研修に参加」、「試しに乗ったら楽しかった」との記述がみられた。

「魅力」についての回答をまとめると表3のようであった。セーリング種目、ローイング種目、ダイビング種目に記述された魅力は、「自然に親しむ」、「自然が相手」などの「自然」に関連した記述と「非日常」、「開放感」、「爽快感」、「仲間との交流」や「陸上にはない世界」であった。ダイビング種目における独自の魅力には、「新しい世界が広がる」、「未知の世界の発見」、「無重力の体験」、「世界中で楽しめる」、「水中生物の観察」があげられた。セーリング種目の魅力では、「競技の楽しさ」、「技術の奥深さ」、「スピード感」、「自己開発と自己責任」、「子供の成長」等が記述されている。ローイング種目の魅力については、「仲間との一体感」、「達成感」、「手軽に挑戦できる」、「普段と違った視線」、「周囲の景色を楽しめる」、「ゆったりとパドリングする楽しさ」、「自分のペースで出来る」、「誰もが挑戦できるスポーツ」や「生態系が間近」と回答されている。

「水辺活動で得られたもの」を表4にまとめた。セーリング種目、ローイング種目、ダイビング種目において「友人・知人が増えた」、「人間関係が構築できた」等の人間関係に関する記述や、「自然に関心を持ち、自然に目を向けるようになった」、「自然の素晴らしさや恐ろしさを学んだ」等の自然に関する記述があった。これらに加え、「健康・体力の維持」と「スキルの向上」が各種目におい

表2. 始めたきっかけについて (セーリング種目・ローイング種目・ダイビング種目における回答, 数字は回答者数)

セーリング種目		ローイング種目		ダイビング種目	
仕事の都合や研修, 勤務として クラブの顧問になった BGの資格(育成士)取得から 高校・大学の部活・サークルで 知人・友人に誘われて	37 25 20 19 11	仕事・勤務上の都合で BGの育成士研修参加 授業・指導に必要な 人事異動・転職により 部活動の顧問となった	49 22 11 7 5	学校改編による授業の 環境で 部活に入学して 仕事・業務の都合上 海外で体験ダイビングを行った 趣味として	9 7 4 2 2
海が好きだった 授業が必要だった 興味があった 趣味として 父がヨットをしていた	8 6 5 2 1	海洋センターの担当となった 学生時代の部活動 部活の勧誘 興味を持った 学生時代のボランティア	4 3 1 1 1	研究手段として 先輩の誘い クラブの顧問となった 海が家から近い BGの仕事をするようになって	2 2 1 1 1
大学生時代のボランティアリーダーから 大学時代のレジャー 近所に海洋センターがあり, 楽しそうだった 海洋クラブに入会した 乗ったら楽しかった	1 1 1 1 1	海峡横断に駆り出された 兄の影響 監督に誘われて 普段体験できないことだから 公開講座受講	1 1 1 1 1	子どもに自然体験をさせるため 器材が身近にあった 海が好きだった 社内にクラブがあった テレビを見て	1 1 1 1 1
父親に勧められて 主人から教わった 憧れのスポーツだった 金銭的に可能になった 海洋系の専門学校入学	1 1 1 1 1	大学の授業で 試しに乗ってみたら楽しかった 小学生の頃, 海洋クラブに入会した 高校時代の部活動 家が海に近いから	1 1 1 1 1	好奇心 海の仕事をしたかった 友人に誘われて 金銭的に可能になった 水中の世界を知りたかった	1 1 1 1 1
公開講座受講 仲間とクルーザー購入 普段出来ないことだったから 帆走の素晴らしさを体験した 旅行時に体験して	1 1 1 1 1	海洋スポーツ研修	1	子どもの頃から素潜りが好きだった 生まれ育った環境が海中心だった レジャー 違った世界を体験したかった	1 1 1 1
将来の教育に必要と感じた オリンピックに出場できる可能性があったため 国体でヨット競技を実施することになってから ヨットの帆走を見て感動した	1 1 1 1				

て記述されていた。それぞれの種目における独自の回答には、ダイビング種目で、「生命の神秘や素晴らしさを知った」、「リラクゼーション」、「海中生物への興味」、「予測・予見することの重要性を知った」、「生活の質が高まった」、「価値観が変わった」等の記述があった。セーリング種目では、「自分でやり遂げることの大切さを学んだ」、「諦めないことを学んだ」、「自然に対する謙虚さが身に付いた」、「子供の成長を実感できた」、「セーリングの普及・事業の運営」、「自己防衛・危険からの回避行動」との回答であった。ローイング種目では、「カヌーの普及・事業の運営」、「物事を違った角度から見るようになってきた」、「自分自身の生き方について考えることが出来た」、「応急手当の技術」が記述されていた。

「日常に生かせるもの」についての回答をまとめると表5のとおりであった。セーリング種目、

ローイング種目、ダイビング種目において記述された「日常に生かせるもの」は、「人間関係」、「健康増進と体力の維持」、「救急法と救助法が役に立っている」、「仕事に生かされている」、「環境への関心・自然保護」、「トラブル時の対応」であった。各種目において独自に記述されている回答は、ダイビング種目において「海の素晴らしさを伝えることができる」、「ボランティア」、「情報交換」に生かされているということであった。セーリング種目では、「ルールを守る精神」、「シーマンシップ」、「全てが生活に生かされている」、「自分の命は自分で守る意識」、「子供を指導したことで自分の考えが広がった」であった。ローイング種目では、「日常の安全意識に生かされている」、「チームワーク」と「リーダーシップ」に生かされているとの回答があった。

表3. 魅力について(セーリング種目・ローイング種目・ダイビング種目における回答, 数字は回答者数)

セーリング種目	ローイング種目	ダイビング種目
自然が相手である	10	7
自然との一体感	10	7
自然とのふれ合いが感じられる	8	5
爽快感	8	4
自然の力を源にする・動力を用いない	7	4
非日常	4	4
年代を超えた交流・年の差に関係なくレースや交流が出来る	3	4
勝敗や競い合い(レース)の楽しさ	3	3
精神と体力の両面(心身共に)を楽しめることが出来る	3	2
自然の競い合いの体験	3	2
子どもたち(青少年)(教え子)の成長	3	2
自然現象を利用して走る爽快感	2	2
自然との対話出来る	2	2
開放感	2	2
スピード感	2	2
広々とした環境でできる	2	2
海からの視点が風景を見れる	2	2
本人のがんばり次第で上位になれる可能性がある	2	2
仲間との協働・ふれあい	2	2
帆走技術	2	2
生き方が養成できる	2	2
自然の雄大さを感じる事が出来る	2	2
自然を理解し、利用するスポーツであること	2	2
奥の深さ	2	2
楽しさと楽しさ	2	2
風を切る感じ	2	2
自然の雄大さを感じる事が出来る	2	2
知識と体力を使う	2	2
シーマanship	2	2
心身共にリフレッシュできる	2	2
イルカなどの出会い	1	1
自然を満喫できる	1	1
体力や年齢応じて多様な楽しみ方が出来る	1	1
自然の厳しさ, やさしさ, 癒しを感じられる	1	1
自己開発	1	1
自分流で楽しめる	1	1
礼儀と規則を守る事が身に付く	1	1
何事も自分の責任で行う	1	1
海から学ぶことが出来る	1	1
心を開放できる	1	1
風を読む	1	1
大自然の中でその魅力を体感できる	1	1
爽快感が簡単に一人で得ることが出来る	1	1
自然の中で喜び感覚で出来る	1	1
風と海面の分析	1	1
年とともに楽しみが増える	1	1
自然から得られる知恵	1	1
スポーツ科, 数学, 生命の不思議, お楽しみと全てを含んでいる	1	1
広く無限大でどこまで行っても生命を実感する厳しさがある	1	1
能力のレベルに合わせて楽しめ	1	1
年齢・男女を問わず楽しめる	1	1
人力が遙かに及ばない自然の中でチャレンジするスポーツとして最高	1	1
自分が謙虚にならなければいけないところ	1	1
海では素直になれる	1	1
自然とつきあう方法が身に付く	1	1
教育効果が大きく, 情熱を傾けることが出来る	1	1
手頃であり, 使いやすい	1	1
自分で出来るスポーツである	1	1
知力・体力・自然を相手に, その全てに勝るものが勝るとなるスポーツ	1	1
自由に操縦できる	1	1
自然を相手に, 自己の成長をはかることができる	1	1
自分自身で考え, 行動しなければならないこと	1	1
自然と人間との関係	1	1
自然が身近に感じられる	1	1
自然がフィールドであること	1	1
技術差がはつきり出ること	1	1
自己発見・自己開発	1	1
自然との共存	1	1
自己の克服	1	1
自分が審判である	1	1
海を満喫できる	1	1
自分の力で水上をすすむことが出来る	1	1
自然の体感	1	1
海上面の前進	1	1
チャレンジ精神が旺盛になる	1	1
レースに勝つ喜び	1	1
陸とは違う世界	1	1
総合的に力をつけることが出来る	1	1
集団スポーツ的な楽しさ	1	1
波と風, 地球との一体感	1	1
色, 形の美しさ	1	1
スポーツとして海に接することが出来る	1	1
自由を感じる	1	1
水の涼しさが気持ちよい	1	1
自然の美しさをを知る	1	1
体力・健康の維持・増進	1	1
予測と判断, 技術などさまざまな要因を考えながら競技を行う	1	1
体力, 精神力, コミュニケーション能力, 社女性向上できる	1	1
陸上にはない別世界の魅力がある	4	4
気分転換・気分のリフレッシュ	3	3
知らない世界を体験できる	2	2
魚の生き生きとした姿を見ることが出来る	2	2
開放感	2	2
海の中が見れる	2	2
たくさん魚や生物	2	2
未知の世界を体験できる	2	2
魚たちの生活の一部を体験できる	2	2
海の生物を観察させるを大いに感動する	1	1
自然と海の素晴らしさを再認識することができる	1	1
案に水中で活動できる	1	1
日常生活からの解放	1	1
水中での無重力状態	1	1
貝等を採り, 食す楽しみがある	1	1
常に新しい状況に接することができる	1	1
非日常的な世界が簡単・安全に体験できる	1	1
仲間との交流	1	1
水中での魚や海藻が美しい	1	1
海の素晴らしさ, 恐ろしさを知る	1	1
自然への畏敬	1	1
いろいろな場所に旅行に行ける	1	1
海という環境に必要最小限の道具にて, 触れることができる	1	1
冒険心を味わえる	1	1
新しい世界の広がり	1	1
時間をかけて観察できる	1	1
各レベルごとに目標があり, おもしろい	1	1
日ごろのストレスからの解放	1	1
余暇を楽しむことができる	1	1
自然に親しめる	1	1
世界中どこでも楽しめるスポーツである	1	1
自然の中で行動できる	1	1

表4. 「得られたもの」について（セーリング種目・ローイング種目・ダイビング種目における回答、数字は回答者数）

セーリング種目	ローイング種目	ダイビング種目
全国各地に人のつながりが出来た 自然に関心を持ち、自然に目を向けるようになった 天候・海の法規・艇やエンジンに関する知識を学べた 自然の素晴らしさ、大切さ、恐ろしさ等を体験できた 体力・自信・肉体的精神的強化	28 全国各地に友人がたくさん出来た 19 自然に関心を持ち、目を向けるようになった 17 体力・自信・肉体的精神的強化 14 天候・海の法規・艇やエンジンに関する知識を学べた 14 カヌーのスキル向上	16 気象・海象を含めた、海についての知識を得た 16 友人・知り合いが出来た 13 生命の神秘、素晴らしさ、大切さを知ることが出来た 9 海の怖さ・偉大さを知り畏敬を抱いた 9 健康増進・体力がついた
人間関係の構築に役立った 自然に対する謙虚さを学べた 上位大会への参加経験 子どもの成長を実感できた 仲間意識、チームワークの大切さを学んだ	6 自然の素晴らしさ、大切さ、恐ろしさを体験できた 6 カヌーの普及・事業の運営 6 面白さ・楽しさがわかった 6 子どもの成長を実感できる 5 余暇が広がった	7 現在の仕事 6 体力の維持 4 多くの人たちとの交流 4 忍耐力を養うことができた 4 自然の素晴らしさや恐ろしさを学んだ
子どもやOBとの深いつながり・関わり 生涯スポーツ 多くの選手を育てることが出来た 指導者として自信がついた 趣味や興味の幅が広がった	5 危険からの回避行動 3 カヌーの指導技術 3 自分も含めて、子どもたちに自信がついた 3 自分自身の生き方について考えることが出来た 3 上位大会への参加経験	4 価値観が変わった 3 日々の生活における充実感 3 経験が積み、確実な指導が出来るようになった 3 予備・予見する事の重要性 3 心豊かな人生を送ることが出来た
自分でやり遂げることの大切さを学んだ 諦めないことを学んだ セーリングの普及・事業の運営 若さ、活力、友人、知人 スピード感覚、風を身体で感じられる能力など	3 新しい自分の発見 3 礼儀を学んだ 3 余暇の楽しさが増えた 2 応急手当の技術 2 自然に関する知識の習得	3 漁民との親睦をはかることができた 2 興味・関心の広がり 1 健康な体と精神を身につけることが出来た 1 世界が広がった 1 教員として指導できる
関係する仕事に就くことが出来た 海洋スポーツの楽しさ・面白さがわかった 新しい自分を発見できた スポーツ社会における社会的地位 人に優しい素直な選手が育っていること	2 情報に敏感になった 2 子どもたちが感動し、喜ぶ様子を見る事が出来た 2 水に対する恐怖心がなくなった 1 物事を違う角度からみれるようになった 1 ストレス解消	1 授業で体験談等を話題に出来る 1 技術の体得 1 生徒との関係 1 教員としての幅 1 水中の神秘
一言で言い表せない 組織を学ぶことが出来た 大自然の中の人間という視点を持つことが出来た 人生そのもので、人間としての生き方全て 危険からの回避行動	1 現在の職業 1 シーマンシップ 1 One for all, all for one 1 他の海洋スポーツにも魅力を感じた 1 潮の干満による動植物の変化について知った	1 生活の質が高まった 1 救助法などの関連分野の技術や知識の習得 1 海に出ると新しい発見がある 1 ストレスの解消 1 リラクゼーション
スポーツマンシップの真の意味に近づけた 全てのことが自己責任であることがわかった 余暇の楽しさが増えた 自作のクルーザーを作った 勝つことの喜び、負けることの悔しさ、勝ち続ける難しさ	1 1 1 1 1	海中生物への興味 変化する海に対応する能力を高めることが出来る
生活力の向上 子どもたちに自信がついた 子どもの喜んだ顔	1 1 1	

4. 期待される教育効果について

水辺活動に期待される教育効果について、19項目を提示し、それぞれについて①期待できる、②期待できない、③わからない、の回答から最もあてはまるところを選択してもらった（図1）。記入に先立ち、回答者がどのような活動を想定したかということについて、「短期体験型」なのか、あるいは「長期継続型」のものなのかについても尋ねた。

全体的にみて、教育的効果が「期待できる」といった回答が多く、中でも80%以上の回答者が

「期待出来る」と回答した項目は表6のようであった。最も高い回答が得られたものは「直接体験から学ぶ（94.8%）」、次に「自然への理解を深める（93.6%）」、「ルールやマナーを守ることを学ぶ（91.2%）」であり、これらの3項目は90%を超えていた。以下、高かった順に、「自信をつける（88.3%）」、「自主性を育てる（85.9%）」、「心身をリフレッシュする（85.2%）」、「協調性・社会性を育てる（82.8%）」、「自然の変化に対応する能力を育む（80.9%）」、「感性を育む（80.2%）」であった。

表5. 「日常に生かせるもの」について (セーリング種目・ローイング種目・ダイビング種目における回答, 数字は回答者数)

セーリング種目		ローイング種目		ダイビング種目	
ロープワーク	26	ロープワーク	10	健康増進, 体力維持	6
天候の把握を日頃から行うようになった	14	天候状態の把握を日頃から行うようになった	9	そのまま仕事に直結している	4
環境への関心が高まった	10	自分の体験を伝えることが出来る	6	余てが生活に生かされている	4
指導に役立っている	9	自分自身の考え方が広がった	5	パニック時やハイストレス時の精神的な対応	3
海への甘い考え方が変わった	9	仕事に役立っている	4	リラクゼーション	3
子どもたちに経験を伝えることが出来る	9	体力維持・技術の向上を図る	4	仕事と余暇	3
パニック時やハイストレス時の対応	6	環境への関心が高くなった	4	異業種での情報交換	3
リラクゼーション	6	幅広い年齢層の人達と語り合うことができる	3	救急法・救助法が日常で役立っている	3
経験を生かすことが出来る	6	安全面への配慮	3	冷静に物事に取り組むことができた	2
全体を見る事が出来る	6	心の支えとなっている	3	友人が増えた	2
判断力, 決断力, 集中力, 忍耐力, 持久力が培われた	6	自然の厳しさを実感した	3	自然保護活動	2
体力の維持・向上に役立っている	5	救急法・救助法が日常で役立っている	2	海の素晴らしさを伝えることができる	2
子どもたちとの交流	5	学習に対しても集中して取り組むことができた	2	海に関心を持つようになった	2
ルールを守る精神	5	日常の安全意識に生かされている	2	船の航行中ダイビング技術が役立った	1
シママンシップ	5	危険回避能力	2	授業で使用する生物の採取	1
情報収集	5	海への甘い考え方が変わった	2	海洋環境の変化が体験的に理解できる	1
子どもを指導したことで自分自身の考えが広がった	5	忍耐力を養うことができた	2	ボランティア	1
救急法・救助法が役に立っている	4	何事にも冷静に判断できるようになった	2	予測・予見することの重要性	1
全てが生活に生かされている	4	清掃活動の恒常化	2	トラブルが発生したときに頼りにされる	1
生活力の向上	4	指導者としての誇りと自覚	2	苦しいことは何もないと感じられる	1
そのまま仕事に直結している	3	現在の職場に就職し, 教室, クラブ等を行なっている	1	日赤の水上安全講習会等のボランティア	1
仲間を増やし日々楽しく過ごしている	3	子供達に教えられる	1	地元の人に海を紹介できた	1
人間関係におけるリーダーシップや円満な関係の維持	3	規則正しい生活ができる	1		
人との関わりを円滑に保つことができた	2	人に頼りすぎず協力しあうこと	1		
経営者になれた	2	自然環境の大切さ	1		
ものを大切に使う	2	物を大切に使う	1		
危険回避能力, 危機管理能力	2	相手への思いやりや関心を含め日常生活に役立っている	1		
スポーツに関する話題の共有	2	海の素晴らしさを伝えることができる	1		
何事もやる気が大事	2	生活排水対策を家族で取り組んでいる	1		
食物等に対する直感的な対応(必要とするもの, 危ない食物等)	1	事前に準備に気をつけるようになった	1		
学校教育活動の計画・運営についての具体的な意見を高く言っている	1	整理整頓, 狭いスペースの有効活用	1		
整理整頓, 礼儀正しさ, 時間厳守	1	水辺での自然体験活動の地域への普及・啓発	1		
トラブルが起きたときに諦めることなく(何が工夫してもやろうとする根性)	1	チームワーク	1		
クルージングがきっかけで船の自作に及んだ	1	リーダーシップ	1		
常に安全を確保するために事前に準備に気をつけるようになった	1	他では得られない知識が増えた	1		
夏でも冬支度	1	その日に仕事を完全に済ませる習慣がついた	1		
生涯のスポーツ	1	自然の家での指導に役立った	1		
指導者としての誇りと自覚	1	予測・予見することの重要性	1		
自分の命は自分で守る意識が高まった	1	トラブルが発生したときに頼りにされる	1		
親子関係の確立	1	事故防止	1		
海藻や魚をおいしく食することができる	1	地域おこしに役立っている	1		
海の生き物を見れる	1	ヨットやカヌーを体験し, 島の良さや海の楽しさを知ってもらう	1		
魚家の経験を海洋スポーツに逆生かすことができた	1	小型船舶操縦免許を取得した日赤の水上安全講習会	1		
事故防止	1	等のボランティア	1		
地域おこしに役立っている	1	自分の余暇を有効に利用するようになった	1		
ヨットやカヌーを体験し, 島の良さや海の楽しさを知ってもらう	1				
日赤の水上安全講習会等のボランティア	1				
自分の余暇を有効に利用するようになった	1				

次に, 想定した活動形態 (短期体験型と長期継続型) によって, 期待される効果に違いがあるかを検討するためにクロス集計を行い, χ^2 検定を行った結果, 短期体験型と長期継続型に有意差が認められた項目は, 表7のようにまとめられた。クロス集計の結果, 長期継続型に「期待できる」が多く, 短期体験型において「期待できない」が

多い項目には, 「自然への理解を深める」, 「物を大切にやる心を育てる」, 「生き抜くための力を育てる」, 「自主性を育てる」, 「健康・体力を維持・増進する」, 「自然の変化に対応する能力を育む」, 「環境保全の意識を高める」, 「専門的技術・知識を学ぶ」の8項目であった。これらの8つの項目は, 長期継続型の活動によってもたらされやすい

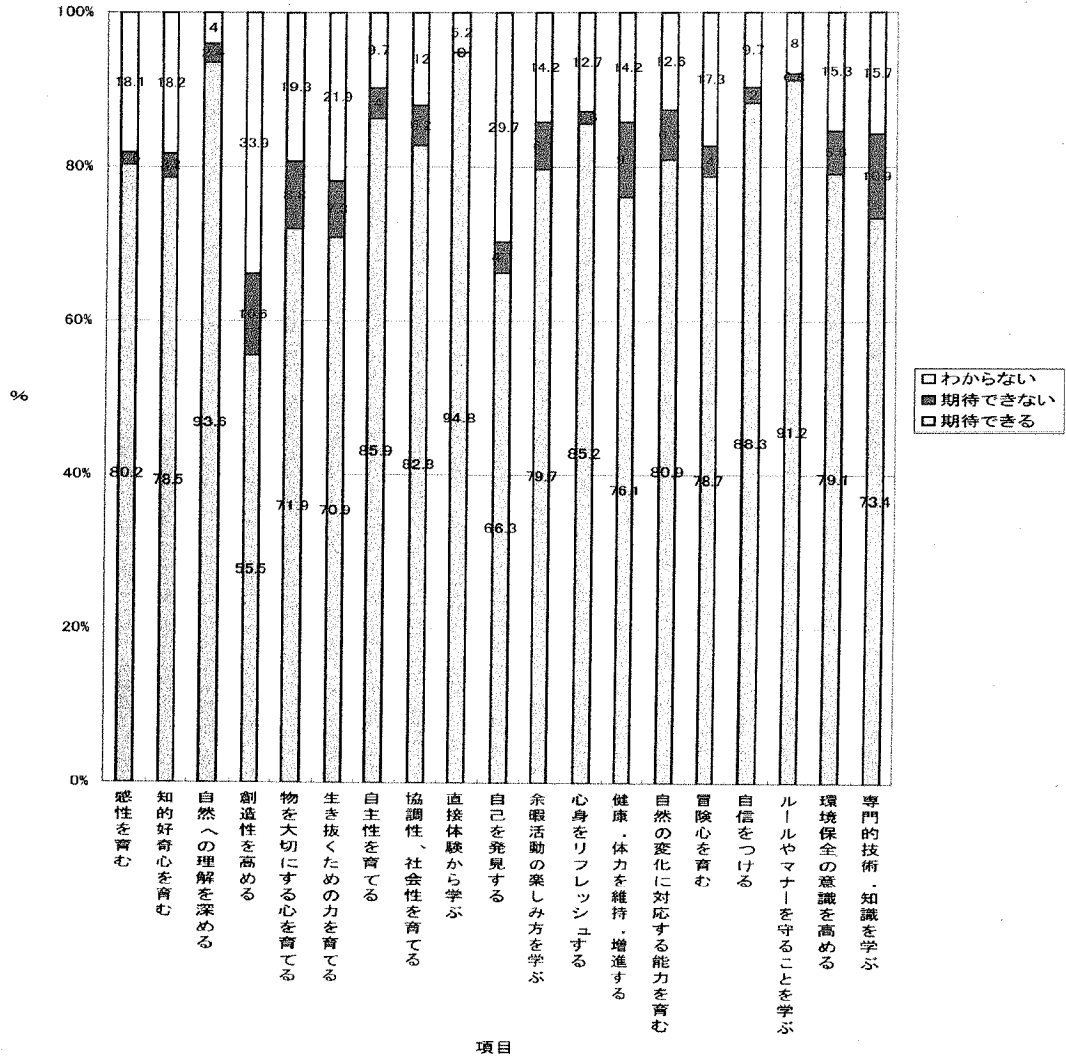


図1. 期待される学習効果 (N=262, 図中の数字は%)

と指導者たちが感じていることが示された。また、短期体験型に「期待できない」が多かった項目は上記8項目に加え「自己を発見する」の1項目であった。さらに、「自主性を育てる」と「専門的知識・技術を学ぶ」においては、短期体験型に「わからない」との回答が多い傾向があった。

これらの結果から、総じて長期継続型のほうが短期体験型に比べ、期待できる教育効果が大きいと考えられる。それは、回答者によっても「この

種目の特性として短期体験型では伝えきれない点が多いと思います」と指摘されている。よって、短期体験型でイベントや体験教育を行おうとする場合には、目的と方法を明らかにして事業を展開する必要があるだろう。

しかしながら、短期体験型の事業を中学生に毎年行っている成果でも学年が高くなると技術的なことがらを覚えている割合が高くなる⁷⁾ことや、経験年数とともに自然に対するイメージが好まし

表6. 教育的効果が「期待できる」として回答された項目

質問項目	「期待できる」への回答
直接体験から学ぶ	236 (94.8%)
自然への理解を深める	233 (93.6%)
ルールやマナーを守ることを学ぶ	227 (91.2%)
自信をつける	219 (88.3%)
自主性を育てる	213 (85.9%)
心身をリフレッシュする	208 (85.2%)
協調性・社会性を育てる	207 (82.8%)
自然の変化に対応する能力を育む	199 (80.9%)
感性を育む	199 (80.2%)

()内は有効%

い方向へ高まること⁸⁾も報告され、短期的な事業であっても繰り返すことによる効果が得られることも指摘されている。

一方、今回の調査に対する回答においても、「同じように活動を行っても指導者の運営方法で教育的効果は変わる」といった意見や、より教育効果を意識した「教材やプログラムの持ち方を工夫していく必要がある」といった意見もあげられている。また、「海洋スポーツには縦の社会の良

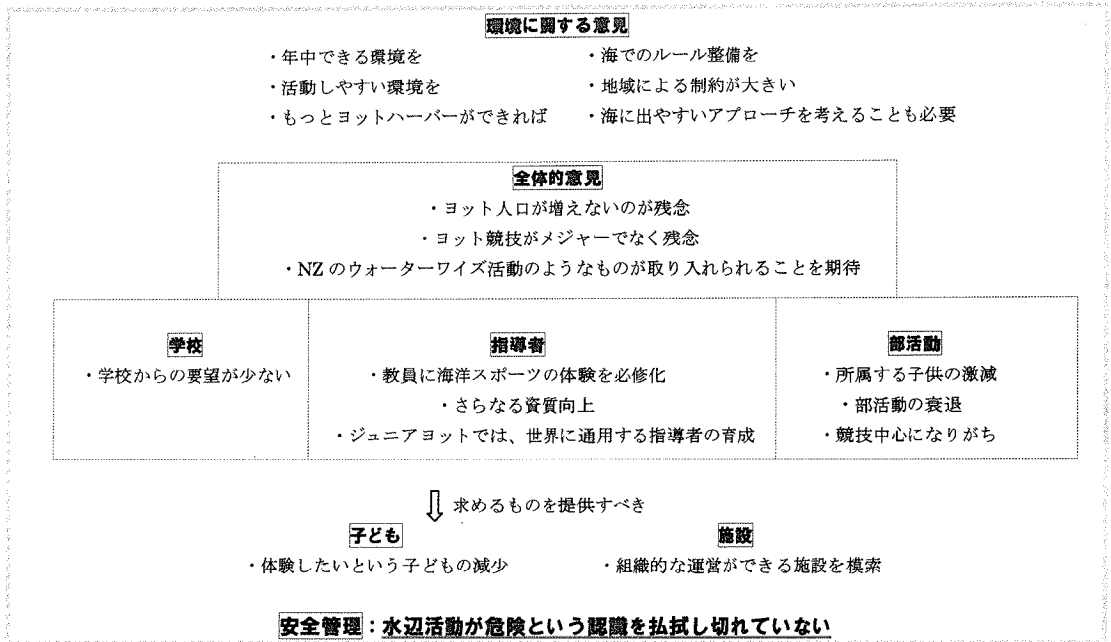
い面があると思う。また自らは自らの責任において(安全管理等)行動するという精神を養うと思う」といった教育的効果に関する記述があった。加えて、「どんなスポーツでも同様であるが、人任せ、依存の姿勢では何の効果も期待できないと思う」というように、教育を行う側の意識・方法や教育を受ける側の主体性にも言及していた。

5. その他の水辺活動に関する意見

自由記述欄を設けたが、そこに記入された意見を分類し、資料1にまとめた。「四方を海に囲まれた日本で健全かつ合理的に発展してほしい」、「もっと国民的スポーツとして普及するようになれば」、「周囲を海に面しているのに本競技(ヨット)はメジャーでないのが残念」、「ニュージーランドのウォーターワイズ活動のようなものが、早く日本でも取り入れられることを期待しています」、「多くの人が積極的に海で遊ぼうと思える環境の整備と“自己責任”という考えの啓蒙こそが大切だと思う」などの、今後の普及に期待する意見があげられている。

表7. 長期継続型と短期体験型に期待される教育効果の比較(数字は回答人数, ()内は%, *は残差分析の結果有意差あり p<.05)

項目	長期継続型+短期体験型 (N=144)			長期継続型 (N=72)			短期体験型 (N=72)			χ ² 値	P
	期待できる	期待できない	わからない	期待できる	期待できない	わからない	期待できる	期待できない	わからない		
Q1. 感性を育む	113(80.7)	2(1.4)	25(17.9)	59(81.9)	0(0)	13(18.1)	54(79.4)	2(2.9)	12(17.6)	2.15(df=2)	n.s.
Q2. 知的好奇心を育む	114(81.4)	4(2.9)	22(15.7)	56(80.0)	3(4.3)	11(15.7)	59(82.9)	1(1.4)	11(15.7)	1.04(df=2)	n.s.
Q3. 自然への理解を深める	128(90.8)	6(4.3)	7(5.0)	69(95.8)*	0(0)*	3(4.2)	59(85.5)*	6(8.7)*	4(5.8)	6.86(df=2)	p<.05
Q4. 創造性を高める	78(56.1)	15(10.8)	46(33.1)	45(64.3)	5(7.1)	20(23.2)	33(47.8)	10(14.5)	26(37.7)	0.12(df=2)	n.s.
Q5. 物を大切にすることを育てる	101(71.6)	13(9.2)	27(19.1)	59(81.9)*	2(2.8)*	11(15.3)	42(60.9)*	11(15.9)*	16(23.2)	9.96(df=2)	p<.01
Q6. 生き抜くための力を育てる	91(65.5)	14(10.1)	34(24.5)	58(82.9)*	0(0)*	12(17.1)	33(47.8)*	14(20.3)*	22(31.9)	23.8(df=2)	p<.001
Q7. 自主性を育てる	120(85.7)	8(5.7)	12(8.6)	68(95.8)*	1(1.4)	2(2.8)*	52(75.4)*	7(10.1)*	10(14.5)*	11.94(df=2)	p<.01
Q8. 協調性・社会性を育てる	119(83.2)	8(5.6)	16(11.2)	64(88.9)	2(2.8)	6(8.3)	55(77.5)	6(8.5)	10(14.1)	3.67(df=2)	n.s.
Q9. 直接体験から学ぶ	132(93.6)	0(0)	9(6.4)	66(93.0)	0(0)	5(7.0)	66(94.3)	0(0)	4(5.7)	0.1(df=2)	n.s.
Q10. 自己を発見する	98(71.0)	9(6.5)	31(22.5)	52(74.3)	1(1.4)*	17(24.3)	46(67.6)*	8(11.8)*	14(20.6)	6.07(df=2)	p<.05
Q11. 余暇活動の楽しみ方を学ぶ	109(79.0)	10(7.2)	19(13.8)	54(78.5)	5(7.2)	10(14.5)	55(79.7)	5(7.2)	9(13.0)	0.06(df=2)	n.s.
Q12. 心身をリフレッシュする	119(86.2)	4(2.9)	15(10.9)	58(82.9)	2(2.9)	10(14.3)	61(89.7)	2(2.9)	5(7.4)	1.71(df=2)	n.s.
Q13. 健康・体力を維持・増進する	98(70.0)	21(15.0)	21(15.0)	59(83.1)*	4(5.6)*	8(11.3)	39(56.5)*	17(24.6)*	13(18.8)	13.29(df=2)	p<.001
Q14. 自然の変化に対応する能力を育む	109(78.4)	15(10.8)	15(10.8)	65(91.5)*	2(2.8)*	4(5.6)	44(64.7)*	13(19.1)*	11(16.2)	15.32(df=2)	p<.001
Q15. 冒険心を育む	115(81.0)	9(6.3)	18(12.7)	56(80.0)	3(4.3)	11(15.7)	59(81.9)	6(8.3)	7(9.7)	1.94(df=2)	n.s.
Q16. 自信をつける	127(90.1)	4(2.8)	10(7.1)	66(91.7)	1(1.4)	5(6.9)	61(88.4)	3(4.3)	5(7.2)	1.13(df=2)	n.s.
Q17. ルールやマナーを守ることを学ぶ	191(91.6)	2(1.4)	10(7.0)	68(94.4)	1(1.4)	3(4.2)	63(88.7)	1(1.4)	7(9.9)	1.78(df=2)	n.s.
Q18. 環境保全の意識を高める	112(78.9)	12(8.5)	18(12.7)	64(90.1)*	2(2.8)*	5(7.0)	48(67.6)*	10(14.1)*	13(18.3)	11.18(df=2)	p<.01
Q19. 専門的技術・知識を学ぶ	97(68.8)	25(17.7)	19(13.5)	65(90.3)*	3(4.2)*	4(5.6)*	32(46.4)*	22(31.9)*	15(21.7)*	31.99(df=2)	p<.001



資料1. 水辺活動の普及と発展に関する課題 —自由記述により寄せられた意見より作成—

水辺活動を実施する環境づくりについては、「海に出やすいアプローチの仕方を考える必要がある」、「場所によってレベルや色んな制約があるので、全国共通のルールを整備して活動できる環境を作る必要がある」、「年中出来るような環境が出来ると良い」、「ヨットハーバーがもっと各地に出来ると良い」、「ジェットスキー等の海洋スポーツは漁業関係者との関係や危険が改善されない限り実施できない」等が記述されていた。

安全管理という面では、「学校サイドが水難事故を恐れているのか、全体的にセーリングやカヌーなどへの取り組みが試みられていないようです」、「海洋性スポーツ＝危険との認識が払拭しきれていない事が実情である」、「危険が改善されない限り実施できない」などの意見があった。

施設に関しては、「生涯教育の場として組織的な運営ができる海洋センター的なものを模索している」、「水辺スポーツを体験する施設の運営管理指導者の不足等様々な点で不便を感じている」と述べられている。

学校に対して「水辺活動を標榜する以上は、もっと教育現場からの要望があってもいいのではないかと思います」といった意見があった。

部活動に関しては、「部活動に所属する子供の激減」、「水辺活動が部活動として衰退化」、「部活動はいきおい競技中心になりがち」といった指摘がなされている。

指導者に関する課題には、「小中学校の教員に海洋スポーツの体験を義務付けた方が良い」、「指導者としての資質向上に責任を感じている」といったことや、ヨット界における「高校や大学の指導者・コーチ陣の不足・不在」や「世界に通用する指導者・コーチを育成するのが最重要課題」といった意見が述べられている。

子供については、「海洋性スポーツを体験したい子供が減少し、子供の性格も変化しているようです」といったことが述べられ、子供と指導者の関係については「子供の個性によって得るものは多岐にわたるし、指導者によっても大きく変わる」、「クラブに入って来る親子が何を求めているかに

よって、得られるものも大きく変わってくるのではないかと指摘されている。

海洋スポーツの普及と発展に向けては、環境、安全管理、施設、学校、指導者、子ども、子どもと指導者の関係についての課題が整理された形となった。

研究の課題と今後の展開

今回の調査では、回答者からも「水辺活動に関する調査については、個人に関するアンケート調査になってしまうと水辺活動の教育的効果の調査にはならないと考えられる」という指摘があったように、今後は施設や教育委員会への調査も必要である。また、「水に関するスポーツとそれらを主管する組織の目的は多岐にわたり、これらを一括し、水辺活動として統計調査することは大変難しい課題」との指摘もいただいている。今後は目的、組織形態等による分類を行い再調査する必要性もある。

今回は指導者に対する調査で、おおまかな傾向を把握することが出来た。教育的効果に関しては、今回の調査結果を踏まえ、参加者に対する調査を実施することによって、水辺活動の事業の効果を検証していくことが課題となる。また、長期継続型の活動において教育的効果が大きいとする結果を検証するためには、活動を長期的に継続している者を対象とした追跡調査が有効であると考えられる。一方で、短期体験型における教育的効果も明らかにしていく必要があり、それぞれの事業や活動がどういった効果をもたらすのかということについて明らかにするための実証的な調査を重ねていく必要がある。

謝 辞

本調査の実施にあたり、こころよく調査にご回答いただくとともに、叱咤・激励を賜りました全国の水辺活動指導者の方々に感謝を申し上げます。また、調査用紙送付にあたりまして、ブルーシー・アンド・グリーンランド財団の岸川明男氏には多大なるご協力をいただきました。ここに記して深謝致します。

文 献

- 1) 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター (1996) 海洋スポーツ施設の現状と課題, 海洋スポーツ研究 1 : pp1-47.
- 2) 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター (1997) 海洋スポーツ指導者の現状と課題, 海洋スポーツ研究 2 : pp1-28.
- 3) 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター (1998) 学校教育における海洋スポーツ活動の現状と課題, 海洋スポーツ研究 3 : pp1-53.
- 4) 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター (2000) 学校教育における水辺活動導入への模索, 海洋スポーツ研究 5 : pp2-28.
- 5) 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター (2001) 海洋スポーツ団体の安全普及方策の現状, 海洋スポーツ研究 6 : pp1-56.
- 6) 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター (2002) 海洋スポーツ施設における安全体制と課題, 海洋スポーツ研究 7 : pp1-69.
- 7) 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター (2001) 平成12年度大学等地域開放特別事業, 水辺活動体験—鹿屋市立高須中学校ヨット学習一報告書 : pp33.
- 8) 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター (2002) 平成13年度大学等地域開放特別事業, 水辺活動体験—鹿屋市立高須中学校ヨット学習一報告書 : pp28.
- 9) 酒井哲雄 (1986) 海洋性スポーツ, レクリエーションの特性と将来展望. 鹿屋体育大学研究紀要 Vol. 1 : pp1-5.
- 10) 酒井哲雄 (1998) 海洋性スポーツ, 指導者ハンドブック : pp13-17. 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター, 鹿児島.
- 11) 坂田勇夫 (1894) 梅田利兵衛, 長谷川純三監修, 水辺野外活動 : pp15-21. ベースボールマガジン社, 東京.
- 12) 青少年の野外教育の振興に関する調査研究協力者会議 (1996) 青少年の野外教育の充実について (報告) : pp3-5. 文部省.
- 13) 渡壁史子・橋本公雄・徳永幹雄・柳敏晴・西田順一 (2001) 海洋体験学習がメンタルヘルスに及ぼす影響について, 九州スポーツ心理学研究13(1) :

pp37-38.

- 14) (財)マリンスポーツ普及教育振興財団 (2003) 水辺活動の教育への導入に関連する調査報告書－児童・生徒を対象とした水辺活動の体験機会の継続的展開をめざして－: pp7-29.